

建設技術新聞

2010年(平成22年)
6月14日(月曜日)

第745号

昭和54年10月8日第3種郵便物認可
発行所(株)建設技術新聞社
編集人 横井 正明

隔週刊(毎月第2、第4月曜日発行)
東京都渋谷区道玄坂1-13-5
☎03(5428)8261(〒150-0043)

購読料
半年 12,600円
1年 23,100円



世界一の現場の安全を支える 足場エンジニアリング

東京スカイツリーで足場機材が活躍

日綜産業

来年12月の竣工に向けて、順調に建設が進む東京スカイツリー(施工:大林組)。現場では、日綜産業の安全足場機材が数多く採用されており、同社が数々の現場で培ってきた足場エンジニアリングの結晶が、高さ634mという世界一の自立式電波塔建設の安全・安心を支えている。

同社の仮設製品が最初に納入されたのは、昨年4月。高さ約50mまで、先行して建てるシャフト部分を作るために建方用足場の「トビック」と「コラムステージ」が、同じく50mまでの塔体本体外周の枠組足場部分には幅木付きの先行手すり枠「セフトパラペッター」2,200セットがそれぞれ納入された。同年5月からはシャフト部分の建方連層吊足場、6月から50m以降の塔体建方用の外塔ユニット足場が納められた。

3Sシステムで丸鉄骨の変状に対応

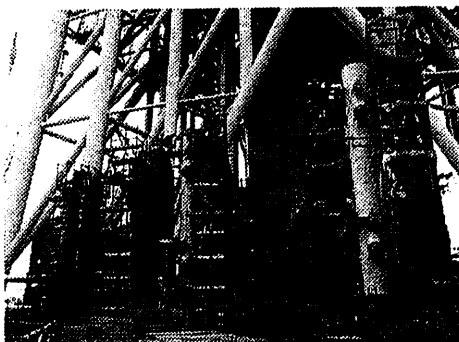
スカイツリーの鉄骨は、最下部の太さが直径230cmで最上部は80cmと、徐々に変化していく。その微妙に違いのある丸い鉄骨に合わせ、同社3Sシステム(ワンタッチ式のクサビによって建地材と水平材を結合させ、組み立てる仮設構造物システム)の足場を地上でセットし、上空へクレーンで吊り上げて溶接作業を進めた。外塔ユニット足場は1つ1つ違う形

の3S特注足場を使い、盛り替え作業を繰り返した。

今年4月中旬からユニット足場は一旦撤去され、現在は第1展望台の施工が進められている。展望台は外側に膨らんで、足場もせり出す形となり、「トビック」1,500台、「コラムステージ」700台が使われている。



外塔ユニット足場



発射台でセットされた足場



発行所
日本工業経済新聞社
 水戸支局
 茨城県水戸市笠原町978-25
 茨城県開発公社ビル1階
 電話 029(301)1055
 FAX 029(301)1066

現場の安全・安心支える

巨大建造物建設に一役

日綜産業(株) (小野辰雄 4mで世界一の自立式電部230cm、最上部80cm代表取締役)の安全足場 波塔となる。

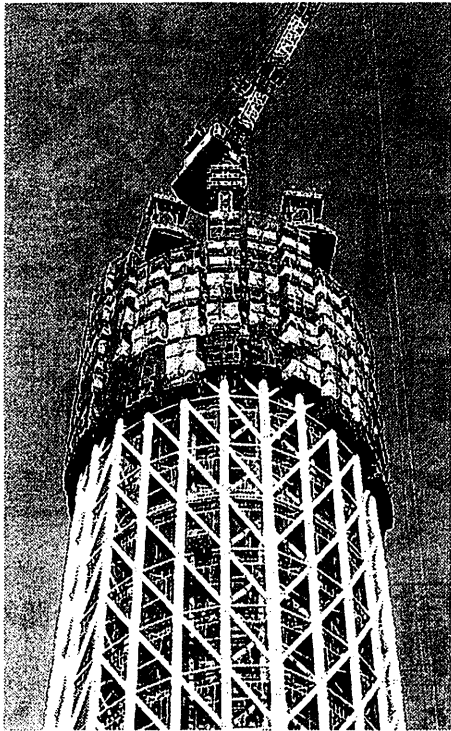
機材が、安全・安心エン 日綜産業の製品は、昨ニット足場は、微妙に違シニアリングを評価さ 年4月から建方用足場のいのある丸い鉄骨に合ワれ、大林組「東京スカイ「トビック」コラムスセ、地上の通称「発射ツリー」の現場に採用さ テーシ」や幅木付きの先「台」と言われる場所です。行手すの枠「セフトパラ Sシステム」の足場をセツ予定の東京スカイツリー「ペッター」2200セツ トし、クレーンで上空へは、3月29日に高さ333ト、外塔ユニット足場など吊り上げ、溶接作業が8mに達し、東京タワー どが納入された。行われた。これまでに約を抜き日本一の建造物 スカイツリーの鉄骨 600tの3Sシステムに、完成すれば高さ633 (鋼管トラス)は、最下 が納入された。

施工が進む第1展望台は「トビック」1500台、「コラムステーシ」700台が使われている。作業所では、現場の要請により、ほぼ毎日、仮設安全監理者によるチェックリストを使った現場の安全点検を実施。現場内には「足場安全点検履歴の証」を掲示し、安全な足場であることをアピール。

今野宏昭東京スカイツリープロジェクトチーム長は「スタート時はあまりにも巨大で複雑な足場ばかりあり、不安と恐怖がありました。素晴らしいスタッフのおかげで大きな問題も無く順調に進み、気が付けば日本一の高さになりました。これからも大林組スタッフのご指導のもと、安全第一で無事故、無災害を掲げまわって行きます」とコメントしている。

「東京スカイツリー」施工で採用

日綜産業(株) 足場機材の高い性能評価



施工中の「東京スカイツリー」の上部

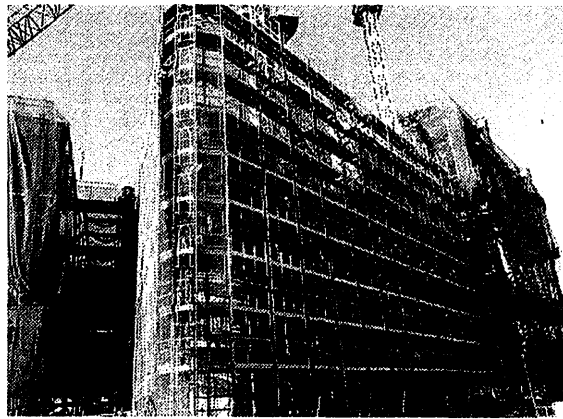
日刊建設産業新聞

発行所
日刊建設産業新聞社
本社 東京都板橋区板橋1-48-9
〒173-8710 電話 03(3961)1691(代23)
ファクス 03(3961)2251
http://www.kensan-news.com/
支社
大阪、神奈川、九州、中国、東北、甲信越
支局
埼玉、中部、神戸、岡山
© 日刊建設産業新聞社 2010

東京スカイツリー施工を支える

とで 機材足場安全 安全点検

日綜産業



パラペッター2200セット納入

で、盛替え作業を繰り返して、2週間で約10層ずつ組み上げるスピードが進んだ。現在までに3Sシステム延べ約600トが納入されている。

4月中旬からは、ユニット足場を一旦撤去。第一展望台の施工が開始されている。展望台は外側に膨らんでいるため、足場もせり出す形となることから同社製品のトピック1500台とコラムステージ700台が使用される。その後、上部の塔体である第二展望台、ゲイン塔(アンテナ用鉄塔)の取り付け工事へと進み来年12付きには世界一の高さを誇る634層の自立式電波塔等が竣工する予定。

今年3月29日に東京タワーを抜いて日本一の建造物となった東京スカイツリー。この工事の安全確保を、日綜産業の安全足場機材と仮設安全監理者による安全点検が下支えしている。

昨年4月に高さ約50層まで、先行して建てる内塔と中塔というシャフト部分を作るための建方用足場「トピック」・「コラムステージ」と高さ50層までの塔本体外周用の枠組足場部分に同社新製品の幅木付き先行手すり枠「セフトパラペッター」2200セットを納入した。以降、5月にシャフト部分に建方連層吊足場、6月後半に塔体建方用外塔ユニット足場の納入を開始。外塔ユニット足場は1つ1つ形状が異なる3S特注足場を用い

東京スカイツリーの施工を担当している大林組は日頃から安全を最重要視しており、今回も現場の要請により、ほぼ毎日、仮設安全監理者によるチェックリストを使った足場の安全点検を実施するとともに、足場安全点検履歴の証を掲示している。

建通新聞

東京

発行所 建通新聞社

首都圏本部東京支社
東京都港区新橋1-17-2
〒105-0004 電話(03)3504-3551

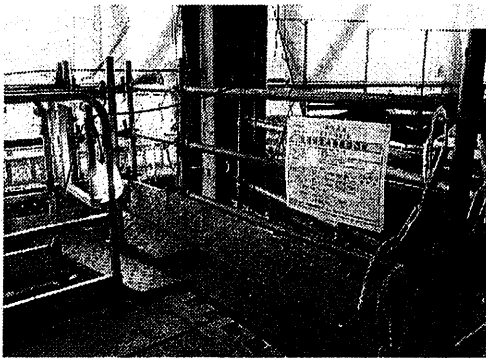
多摩支局 電話(042)527-7291

<http://www.kentsu.co.jp/>
新聞定価6ヵ月 39,000円(税込)

©建通新聞社 2010

発行紙
神奈川/静岡/中部/大阪/岡山
香川/徳島/愛媛/高知

日綜産業の「NISSO安全足場機材」



東京スカイツリー現場で採用

安全・安心エンジニアリングを創造する日綜産業(小野英雄社長)のNISSO安全足場機材が、大林組施工の「東京スカイツリー」施工現場(墨田区押上1丁目)で採用されている。次に、同じく50層までの塔体本体外周の枠組足場部分には同社の新製品である幅木付きの先行手摺り枠組施工の「セフトパラベーター」200セットが納入された。5月からはシャフト部分に建方連層吊足場が入り、6月後半からは50層以上の塔体建方用の外塔ユニット足場が納入された。現在の状態では、外部から一つが違う形の3S特注足場を使い、盛り替え作業を繰り返している。2週間で約10層ずつ組み上げるべし、仮設安全点検をして「足場安全点検履歴の証」のプレートを作業現場に掲示を義務付けしている。

同社製品を最初に納入したのは昨年4月。まず高さ約50層まで先行して建て、内塔と中塔というシャフト部分を作るため、建方用足場の「トピック」・「コラムステーション」が組まれた。外塔ユニット足場となつて約10層ずつ組み上げるべし、仮設安全点検をして「足場安全点検履歴の証」のプレートを作業現場に掲示を義務付けしている。

いる。スカイツリーで進んでいき、現在までの鉄骨(鋼管)に3Sシステムが延べ約6層は、最下部00層納入された。



4月中旬からユニット足場はいったん撤去され、第1展望台の施工が始まった。この展望台は外側に膨らみ足場も作り出す形となり、「トピック」1500台、「コラムステーション」700台が使われ、年12月に竣工予定。

6月3日

2010年

(平成22年)

木曜日

第17135号(日刊)

土、日曜・祝日は休刊

Metal & Technology

鉄鋼新聞

日綜産業の仮設資機材

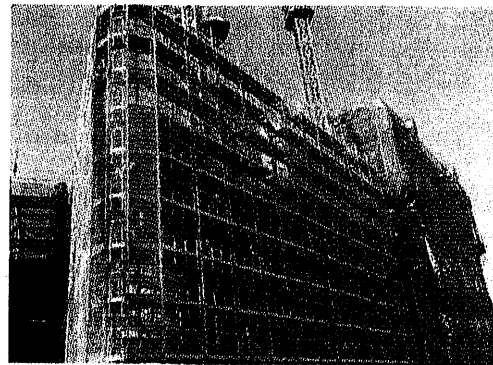
東京スカイツリー

建設現場で多数採用

軽仮設機材の製造・販売・リースを手がける日綜産業(社長・小野辰雄氏)の仮設資機材が現在建設中の東京スカイツリーの現場で多数採用されている。未知の領域となる超高所作業の安全を陰から支える。昨年4月、内

塔と中塔のシャフト部分の工事のため梁本締用足場・柱溶接用足場の「トビック」や「コラムステーション」を現場に初めて納入。また、高さ50mまでの塔体外周の枠組足場部分に

セフトパラペッター



降の塔体建方用の外塔ユニット足場の納入が始まっている。

今年の4月中旬からユニット足場を一旦撤去して第一展望台の施工が始まった。同分野の工事には、トビック1500台、

は、新製品の幅木付先行手すり枠「セフトパラペッター」を2200台納入した。昨年6月後半からは、50m以

東京スカイツリーの建設現場では、ほぼ毎日仮設安全監理者によるチェックリストを使用した足場の安全点検を行っている。現場内には「足場安全点検履歴の証」を掲示しており、足場の安全性が周知されている。



発行所
日本工業経済新聞社
さいたま支局

さいたま市浦和高砂3-10-4
電話 048(862)3331
FAX 048(862)3499

本社 東京都文京区千駄木3-36-11
電話 03(3822)9211
URL: www.nikoukei.co.jp

©日本工業経済新聞社

日綜産業 足場エンジニアリングの結晶 東京スカイツリー現場支える



外塔ユニット足場

日綜産業(小野辰雄代表)大林組「東京スカイツリー(表取締役)の安全足場機」の現場に採用されて、安全・安心エンジニアリングを評価され、の東京スカイツリーは、

3月29日に高さ333.8mに達し、東京タワーを抜き日本一の建造物に、完成すれば高さ634mで世界一の自立式電波塔となる。

日綜産業の製品は、昨年4月から建方用足場の「トビック」「コラムステージ」や幅木付きの先行手すり枠「セフトパラペッター」2200センチ、外塔ユニット足場などが納入された。スカイツリーの鉄骨

(鋼管トラス)は、最下部230cm、最上部80cmと太さが変化。外塔ユニット足場は、微妙に違いのある丸い鉄骨に合わせ、地上の通称「発射台」と言われる場所で3SSシステムの足場をセッティングし、クレーンで上空へと吊り上げ、溶接作業が行われた。

これまでに約600tの3SSシステムが納入された。施工が進む第1展望台は「トビック」1500台、「コラムステージ」700台が使われている。

作業所では、現場の要請により、ほぼ毎日、仮設安全監理者によるチェ

ックリストを使った足場の安全点検を実施。現場内には「足場安全点検履歴の証」を掲示し、安全な足場であることをアピール。

今野宏昭東京スカイツリープロジェクトチーム長は「スタート時はあまりにも巨大で複雑な足場ばかりあり、不安と恐怖がありました。素晴らしいスタッフのおかげで大きな問題も無く順調に進み、気が付けば日本一の高さになりました。これからも大林組スタッフのご指導のもと、安全第一で無事故、無災害を掲げまわります」とコメントしている。